



【ポンプ車の部・ホース延長】



第二七回兵庫県消防操法大会 開催！ (公財)兵庫県消防協会



発行所
公益財団法人兵庫県消防協会
神戸市中央区下山手通4丁目16番3号
編集発行人 岸谷義雄
題字 井戸知事

この一球
届け無事故へ
みんなの願い

九、審査長注意

(庄慶消防学校長)

競技は、小型ポンプの部、ポンプ車の部の順に行われました。

各出場隊とも訓練の成果を十二分に発揮し、迅速かつ安全・正確な動作で火点に向けて放水が行われ、火点が落ちる度に応援団、観客から声援と拍手が沸き起こりました。

全出場隊の操法終了後、大会審査長から審査結果の発表が行われると、会場からは出場選手に対して惜しみない拍手が送られました。大会結果は次のとおりです。

【大会結果】

小型ポンプの部

- 優勝 福岡市消防団
- 準優勝 六栗市消防団
- 第三位 尼崎市消防団

ポンプ車の部

- 優勝 南あわじ市消防団
- 準優勝 姫路市網干消防団
- 第三位 丹波市消防団

表彰式の後、早金防災監からの講評をもって、第二七回兵庫県消防操法大会は幕を閉じました。

なお、小型ポンプの部において優勝した福岡市消防団の出場隊の皆さまは、一〇月一日(金)に富山県富山広域消防防災センター(富山県富山市)で開催される第二六回全国消防操法大会に兵庫県代表として出場します。

- 【開会式次第】
- 一、開会のことば (中西副会長)
 - 二、国旗掲揚
 - 三、黙とう
 - 四、優勝旗返還 (ポンプ車の部・南あわじ市消防団、小型ポンプの部・福崎町消防団)
 - 五、大会会長あいさつ (岸谷消防協会長)
 - 六、激励のことば (井戸知事)
 - 七、来賓祝辞 (小西県議会副議長)
 - 八、選手宣誓 (稲美町消防団 中吉一博)



【ポンプ車の部・放水】



【開会式の様子】



【閉会式の様子】



【小型ポンプの部・放水】



【選手宣誓】

平成三十年度女性消防団員 活性化研修会

(公財)兵庫県消防協会

平成三〇年八月二六日
(日) 兵庫県消防学校にて女性消防団員活性化研修会が、県内から七八名の女性消防団員が参加し、団長をはじめ団幹部等四〇名も出席するなか開催されました。

今回の研修は午前中に富山県小矢部市消防団の嶋田分団長の講演と、姫路市の女性消防団員の皆さんによる活動事例発表を、そして午後からはグループディスカッションを行いました。

嶋田分団長の講演では、実際に取り組まれている様々な活動紹介だけでなく、家庭を持つ女性が消防団活動を行う中での配慮を行い、マニュアル作成やデータ化をして引き継いでいくなどの話をされ、実際に女性消防団員の皆さんが活動していく中で、共感できる点、今後の参考になる点ばかりで、「良い刺激になった」「参考になった」という感想が多く寄せられました。

また、身体に障害を持つ方や海外の方々のための防災や訓練について、気づかされた参加者も多く、今後の活動のための学びになったようです。

次の姫路市の女性消防団員の皆さんによる発表は、市民向けに消火器の使い方や地震の際の行動、AEDや心肺蘇生などを歌と振り付けで伝えるというもので、発表を見た女性団員の皆さんからも、

「分かりやすい歌詞」、「覚えやすい振り付け」、「曲のテンポも緩やか」、「子供からお年寄りまで、だれでも覚えやすい内容」、「伝わりやすいなど」という感想が多くありました。広報活動で「分かりやすさ」はとても大切なことであり、少人数でしかも、発足して数年であっても、自分達にできることを実践していくことの大切さやすばらしさが参加者に伝わったのではないのでしょうか。

午後からのグループディスカッションは、時間が足りないという感想が多くあったほど盛り上がりました。活動内容、苦労している点など活発な意見交換が行えたようであり、同じ想いを持って活動している者同士、情報を共有したり、意見を交換したり、実情に対する問題点を話し合うことができ、有意義な時間を過ごせたという感想が多かったです。「意見を交換する」「他団の実情を知る」「悩みを共有する」ことで、今後、横の繋がりが生まれ、兵庫の女性消防団員の結束と、活動の活性化に繋がっていくべきです。

今後も女性団員さんの数はさらに増えていってほしいものです。少しでもたくさんの方に新しいスキルを身に付けていただくこと、すでに身に付けているスキルをさらにアップすること、時には基本に立ち

返り、確かなスキルを身に付けることは重要だと考えます。そのために、県消防協会の研修会の内容も皆さんがバランス良く学べるように考えていきたいです。これからも積極的にご参加をよろしくお願ひします。

この度の研修会参加消防団は次のとおり。

- ・神戸市東灘消防団
 - ・神戸市灘消防団
 - ・神戸市中央消防団
 - ・神戸市兵庫消防団
 - ・神戸市北消防団
 - ・神戸市長田消防団
 - ・神戸市垂水消防団
 - ・姫路市姫路東消防団
 - ・姫路市飾磨消防団
 - ・尼崎市消防団
 - ・明石市消防団
 - ・伊丹市消防団
 - ・宝塚市消防団
 - ・三木市消防団
 - ・川西市消防団
 - ・三田市消防団
 - ・小野市消防団
 - ・篠山市消防団
 - ・丹波市消防団
 - ・南あわじ市消防団
 - ・たつの市消防団
 - ・淡路市消防団
 - ・猪名川町消防団
 - ・播磨町消防団
 - ・太子町消防団
- ※上記参加者他、男性幹部団員・消防本部職員・市町防災担当職員等四〇名



【筆保事務局長挨拶】



【富山県小矢部市消防団嶋田分団長】



【姫路市女性消防団の皆さんによる活動事例発表】



【「かんべえくん」も一緒に発表しました】



【グループディスカッションで情報共有】



【グループディスカッションで色々な意見交換ができました】



【緊張しながらもディスカッション後の発表を行います】



【ディスカッション後は各班ごとに発表を行います】



【和気あいあいとしたグループディスカッションができました】

平成三〇年 春の叙勲(消防関係)伝達式が挙行



受章者の皆様

平成三〇年春の叙勲が四月二十九日に発令されました。叙勲の受章者(消防関係)は、全国で六三五名、うち兵庫県では、元消防団員一六名、元消防職員三名が叙勲の栄に浴されました。

受章された方々は、永年にわたり国民の生命、身体及び財産を火災等の災害から防御するとともに、幾多の災害に對して、率先垂範して敢然と立ち向かわれ、地域の安全・安心の確保に尽力されました。また、消防力の強化、充実に努めるとともに、消防の発展に貢献し、社会公共の福祉の増進に寄与されたこと等、これまでの抜群の功績により、その榮譽に輝かれました。

今回の叙勲の伝達式は、平成三〇年五月一日(月)一時三〇分より東京・虎ノ門の日本消防会館ニッショールにおいて執り行われ、代表者に叙勲が伝達されました。

式典終了後、受章者の方々は皇居へ参入、拝謁した後、記念撮影が行われました。

兵庫県下受章者(消防関係)

(敬称略)

◎瑞宝小綬章

- 元神戸市 消防正監 加藤幸治郎
- 元西宮市 消防正監 岸本 正

◎瑞宝双光章

- 元明石市 消防正監 藤原 重二
- 元柏原町消防団 団 長 池田 一雄
- 元豊岡市日高消防団 団 長 岡本 孝

◎瑞宝単光章

- 元姫路市姫路東消防団 団 長 奥見 正
- 元洲本市消防団 分 団 長 北谷 良三
- 元篠山市消防団 団 長 北山 正
- 元西宮市消防団 副 団 長 酒井 和勢
- 元香美町消防団 副 団 長 佐藤 尚武
- 元尼崎市消防団 分 団 長 田中 淳一
- 元高砂市消防団 副 分 団 長 中島 知重
- 元淡路市消防団 副 団 長 中山 丈夫
- 元神戸市中央消防団 副 団 長 葉田 勝
- 元たつの市消防団 副 団 長 沼田 水正
- 元加古川市消防団 副 団 長 藤原 清
- 元神戸市西消防団 副 団 長 藤原 睦夫
- 元波賀町消防団 団 長 水口 眞廣
- 元豊岡市竹野消防団 副 団 長 山本 邦雄



平成三〇年 春の褒章 (消防関係) 伝達式が挙行

平成三〇年春の叙勲が四月二十九日に発令されました。褒章の受章者(消防関係)は、全国で一〇六名、うち兵庫県では、一名が藍綬褒章の栄に浴されました。

受章された方々は、消防団員として永年にわたり消防防災活動に献身的に努力し、消防の発展に大きく寄与された、これまでの抜群の功績により、その榮譽に輝かれました。

今回の褒章の伝達式は、平成三〇年五月一日(火)一時五十分より東京消防庁スクワール麹町において執り行われ、褒章が伝達されました。

兵庫県下受章者(消防関係)

(敬称略)

◎藍綬褒章

- 現神戸市西消防団 団 長 高尾 淳



平成三〇年度 安全功労者 総務大臣表彰

安全功労者総務大臣表彰は、「安全思想の普及徹底又は安全水準の向上のため、各種安全運動、安全のための研究、もしくは教育又は災害の発生防止もしくは被害軽減に尽力し、又は貢献した方々の士気高揚を図る」という目的で、消防職団員以外の個人・団体を受章対象とし、行っているものです。

受賞者は、全国で個人二二名・団体一〇団体、うち兵庫県では三団体が受賞されました。

県下の受賞団体は次のとおりです。(敬称略)

- 糸引婦人防火クラブ
- 籠池ふれあいのまちづくり協議会防災部会
- 西大島自主防災会



第三〇回危険業務従事者叙勲が 平成三〇年四月二十九日に発令



受賞者の皆様

叙勲の栄に浴された方々は、消防職員として国民の生命、身体及び財産を火災等の災害から防御するため、永年により著しく危険性の高い業務に精励するとともに消防力の強化、充実に尽力され、消防

の発展に貢献し、社会公共の福祉の増進に寄与されました。今回の叙勲の伝達式は、平成三〇年五月一〇日(木)一四時より東京・合同庁舎第二号館(総務省)において執り行われました。

受章者は、全国で瑞宝双光章三三四名、瑞宝単光章二九一名、計六二五名、うち兵庫県では、二二名の元消防職員の方々が受章されました。

- 兵庫県下受章者(消防関係)
- ◎瑞宝双光章
 - 元西宮市 消防監 上田 一彦
 - 元篠山市 消防司令長 植村 仁一
 - 元尼崎市 消防司令長 圓谷 貴宏
 - 元南但広域行政事務組合 消防司令長 楠 晃
 - 元北はりま消防組合 消防監 坂本 睦男
 - 元西宮市 消防監 柴田 讓二
 - 元川西市 消防司令長 輅井 正彦
 - 元宝塚市 消防監 西 和光
 - 元川西市 消防司令長 西田 孝宏
 - 元加古川市 消防監 藤原 典男
 - 元伊丹市 消防司令長 松元 明人
 - ◎瑞宝単光章
 - 元姫路市 消防司令長 岩城 光明
 - 元加古川市 消防司令長 大西 辰昭
 - 元たつの市 消防司令 紙名 猛
 - 元明石市 消防司令長 河口善代次
 - 元三木市 消防司令 田中 邦夫
 - 元豊岡市 消防司令 谷垣 嘉隆
 - 元伊丹市 消防司令 谷口 豊美
 - 元美方郡広域事務組合 消防司令 田淵 光弘
 - 元宝塚市 消防司令長 橋本 兼次
 - 元三木市 消防司令 森下 秀伸
 - 元西宮市 消防司令 和本 誼綱

平成二九年 兵庫県功労者 表彰式挙行

平成三〇年五月一八日(金)一四時から、兵庫県公館において、平成三〇年兵庫県功労者表彰が挙行されました。

表彰は、二二の功労分野にわたり二二三名の方が受賞されました。

そのうち、消防功労では消防関係者六名が受賞され、消防功労の受賞者を代表し、洲本市消防団の高田団長が井戸知事から表彰状を授与されました。

表彰式後は祝賀ティーパーティーが行われ、なごやかに意見交換が行われました。なお、受賞者の方々は次のとおりです。(敬称略)

◎消防関係

- 前西宮市消防局長 坂本 健治
- 前神戸市消防正監 瀬川 巖
- 播磨町消防団長 加納 利治
- 豊岡市竹野消防団長 仲治 義信
- 洲本市消防団長 高田 光雄
- たつの市消防団長 山田 好則



洲本市消防団 高田団長

岸谷兵庫県消防協会長 被災市町へお見舞い

兵庫県消防協会事務局

平成三〇年七月の豪雨災害により兵庫県は大きな被害を受け、県内では九市六町(豊岡市・篠山市・朝来市・宍粟市・上郡町・香美町・姫路市・西脇市・丹波市・多可町・佐用町・養父市・たつの市・市川町・神戸町)が災害救助法の適用を受けました。

岸谷消防協会長は八月八日(水)から九月三日(月)までの間に、当該全ての市町を訪問し、当協会からの災害見舞金及び日本消防協会からの大規模災害対策支援金を手渡されました。被災地の一日も早い復旧を願うとともに、被災された方々を心よりお見舞い申し上げます。





『大盛況！宍粟市消防団婚活イベント』

宍粟市消防団

宍粟市は、兵庫県の中西部に位置し、北部は養父市・鳥取県、東部は姫路市・朝来市・神河町、南部はたつの市、西部は佐用町・岡山市と接しています。淡路島の一・一倍の六五八平方キロメートルの

面積を有し、そのうち約九割が森林というまちです。

宍粟市消防団は、旧四町を単位とする支団制を活動の基本とし、現在四支団、二十九分団、一〇四部、団員数一四



桜咲く季節の宍粟市消防出初式

八三名により、火災出動はもとより、水防活動や、近年増加する行方不明者の捜索を行うなど、市民が安全で安心に暮らせるまちづくりに貢献しています。

地域防災の一翼を担う消防団、実は、違ったところでちよつとした脚光を浴びました。

それは、全国各地でも開催されている「婚活イベント」です。平成二七年から開始した消防団婚活イベントは、男性参加者は消防団員、女性参加者は市内外から広く募集し、これまでに七回実施し、カッ

ブル成立数は五〇組、そのうち六組は結婚に至っています。これから結婚しそうなカップルも数組あるので、今後もあたたかく見守り、吉報を楽しみにしているところです。そんな実績が認められてか、今年の二月、読売新聞夕刊の紙面半分に掲載される婚活に関する特集が組まれ、宍粟市消防団が取り上げられました。

婚活イベントが始まったきっかけは、団の幹部から「守るべき家族がい



婚活イベントの様子

れば、地域を守る意識も高まる。出会いの機会を作ってほしい」と要望があったことです。市内の施設を活用し、自然豊かな宍粟で消防団員に出逢いの場を提供しています。

婚活イベントのコンセプトは季節に応じた、夏はバーベキューや緑日の屋台を、冬はクリスマスパーティーなどといった感じに、毎回趣向を凝らしたものとなっています。また放水体験や車両展示など消防団のPRも欠かせません。さまざまな企画で、消防団員と女性参加者が交流し、楽しいイベントを開催しています。

災害出動はもちろんのこと、婚活イベントによる明るい話題もまじえながら、消防団への理解と人口減少対策・消防団員の確保につながることを期待しています。



婚活イベント放水体験

『地域防災力の充実強化に向けて』

新温泉町消防団



担架作成・搬送訓練

防団員数が減少しており、地域防災力の低下が懸念されています。また、近年災害の大規模化、複雑化などによって、災害発生時に消防署や消防団による十分な防災活動が行えない事例

が発生しています。

新温泉町は、兵庫県の北西部に位置しており、北は日本海に面し、西は鳥取県に接する地域で面積二四一平方メートル、人口約一万四千人の風光明媚な海・山と温泉を有する自然豊かな町です。

平成一七年一〇月一日、町合併と同時に、旧浜坂町消防団と旧温泉町消防団が統合し、新たに新温泉町消防団として発足しました。

浜坂支団と温泉支団の二支団を有し、西岡安雄団長以下七二名の団員で、火災や災害から地域住民の生命・身体・財産を守ることを使命として、常日頃から風水害や土砂災害などの自然災害に備えて、土嚢作りや土嚢積み訓練、林野火災を想定した中継訓練、さまざまな災害を想定した図上訓練など行なっています。

しかし、当町においても少子高齢化による若年層の減少や就業構造の変化などによって、地域防災力の要である消



放水訓練

時において重要な活動をおこなう組織が自主防災会です。新温泉町消防団では、その自主防災会が行なう初期消火

このような事態に備え、地域住民が「自分の命は自分で守る」「自分たちの地域は自分たちで守る」という自助・共助の考えのもと、お互いに助け合い、人命救助をはじめ、避難誘導や避難所の運営、高齢者や介護が必要な方などの災害弱者への対応など、災害

訓練などに指導者として消防団員を派遣することにより、町民の防災意識の向上と地域防災力の強化を図るとともに、消防団活動に対する町民の理解がより深まり、消防団への加入増につながるものと期待して、積極的に取り組んでいます。

東日本大震災以降、消防団



水消火器訓練

その存在の必要性・重要性が再認識されているところであり、新温泉町消防団はこれからも町民の信頼と期待に応えられるよう、郷土愛護の精神のもと団員一丸となって、安全に安心して暮らせるまちづくりを目指して、引き続き消防団活動に取り組んでまいります。

『尼崎消防の絆七〇周年記念大会』

尼崎市消防団

平成三〇年三月に自治体消防制度発足七〇周年を迎えるにあたり、また時を同じくして、消防行政を側面的に支えている尼崎市防火協会創設七〇周年を迎えることを受け、平成三〇年二月三日に、あましんアルカイックホール・オクトにおいて、記念式典「尼崎消防の絆七〇周年記念大会」が実施されました。

この式典は、消防団員、消防職員及び防火協会会員と、婦人防火クラブ員等自主防災組織の構成員との連携を深めることにより、地域における防火・防災力の更なる向上を図ることを目的として開催したものです。前半の部を記念式典として、各種団体の表彰を実施し、後半の部として、住宅防火対策推進協議会が主



団長表彰



シンポジウムの様子

催する「住宅防火防災推進シンポジウム」と共催という形で実施しております。

前半の部の記念式典においては、七〇年の歴史を踏まえ、長きにわたり、消防団の職務の遂行にあたり、功労が特に顕著である六名の消防団員に対し、表彰を実施いたしました。

また、後半の部「住宅防火防災推進シンポジウム」において、タレントのダニエル・カール氏、尼崎市消防団長及び尼崎市消防局長とフリートーク形式で防災関連の情報提供を実施し、尼崎市の概要を来場されている方に説明し、消防団への理解と入団促進等についてお話をいただきました。

さらにパネルディスカッションにおいて、尼崎市消防団からは、あまがさきファイヤーフェアリーズ（女性消防団員）が参加し、各種広報活動の実施状況などを紹介させていただきました。

「消防団を中核とした地域防災力の充実強化に関する法律」において、消防団を将来にわたり欠くことのできない代替性のない存在として位置付け、地域防災のリーダーとして果たす役割は大きなものとなっております。

そういった中、自主防災組織の方々が一堂に会した本式典において、消防団への御理



フリートーク

解、御協力をお伝えできたことは、誠に意義深いものであったと思われま

火災はいつ発生するかわかりません。また、応急手当はいつ必要になるかわかりません。だからこそ、そのためのい



参加者の皆様



パネルディスカッション

ろいろな準備を諸先輩方が築いてこられた、七〇周年という長い歴史を踏みしめながら、今後も地域住民の方々と協力し、地域防災力の向上に努めてまいります。

『活気あふれる市川町消防団』

市川町消防団



市川町は、兵庫県の中央からやや南西に位置し、町のほぼ中央を南北に流れる市川を中心に開けています。

市川町消防団は二六分団で構成しており、各分団庫には消防車や消防ホース、消防器具を保管・管理しております。

団員平均年齢は三二・一〇歳と県下トップクラスの、若者の活気があふれる消防団です。

市川町消防団の活動については、出初式、幹部・新入団員教養訓練、毎年行われる町操法大会、地元住民との合同訓練、水防訓練、春・秋の火災予防啓発運動などがあります。

主な活動としましては、平成三〇年五月二七日、市川町立川辺小学校で消防操法大会がありました。大会に向けて

日夜訓練に励み、消防の基本となる動作及び礼式の習得・器具の取り扱いを確認しつつ大会に臨みました。

次に、市川町消防団員の大半がサラリーマンで昼間は仕事に出て留守のため、日中も自宅に居られる婦人や老人会の方々と連携して、年一回分団内に設置している消火栓器具格納箱内のスタンドパイプ・ホース・筒先等を使用し、実際の火災時における初期消火の訓練を分団員指導の下行っています。

今後も、我々市川町消防団は、責任ある行動と町民の安全、安心のため、地域住民の期待に応えられる消防団として、牧田団長のもと団員皆が一致団結、精進してまいります。

『多様化する災害に備えて』

明石市消防団

明石市消防団は、昭和二二
年に発足し、昭和四八年から
現在の八分団、定数一〇四〇
名体制で明石市内の災害防除
にあたっています。

これまで明石市は、平成七
年の兵庫県南部地震をはじめ
平成一三年の歩道橋事故、平
成一六年の四つの台風による
水害、そして昨年一〇月二五
日には大蔵市場の火災と大き
な災害による被害を受けてき
ました。

明石市消防団では、それら
の大きな災害に対し動員力や
地域性を活かして災害防除に
あたってきました。

しかし、近年はこれまで経
験したことがない災害が発生
しています。記憶に新しいも
のでは、今年七月の西日本豪
雨や観測史上初の東からの
コースをとった台風一二号が
挙げられます。特に西日本豪
雨では、兵庫県を含む西日本
各地で甚大な被害が発生しま
した。

また、今年水害に限らず
六月一八日には、
大阪府北部を震源
とする震度六弱の
地震が発生しまし
た。

これまでにない
水害や南海トラフ
等の巨大地震の発
生、消防団の活動
はより危険で困難
なものとなってい
ています。

明石市消防団で
は、平成二五年施
行の「消防団を中
核とした地域防災

力の充実強化に関する法律」
に基づき、多様化する災害に
備えた装備面の強化、並びに
それらを扱う団員の育成を
行っています。

【拠点資機材取扱訓練】

明石市消防団では、国から
の無償貸与資機材である消防
団救助資機材搭載型車両や消
防団拠点資機材及び独自で配
備を進めているエアージャッ
キ等の救助器具について、市
内を四分割した地域ごとに配
備しています。

拠点資機材は、震災等の大
規模な災害が発生した場合、
地域に居住する団員がいち早
く救助活動を行えることを目
的とし、各地域で定期的に資
機材の取扱や点検を行い、非
常時に備えています。

また、拠点資機材は、一人
でも多くの団員が取り扱える
ようにとの考えから年に一度
消防団全体として訓練を行っ
ています。

訓練は、震災被害を想定し



エンジンカッターの取扱訓練



エアータント設営訓練

たエンジンカッター、チェー
ンソー、削岩機といった破壊
器具の取扱を行い、救助活動
時の要救助者に対する注意点
や安全管理方法についても学
びます。また、大規模な災害
時に拠点となるエアータント
の設営訓練も行います。

拠点資機材取扱訓練は平成
二五年度から実施しています
が、当初は明石市消防署の救
助隊員から指導を受けていま
した。しかし、近年は、経験
を積んだ分団長等が指導者と
なり他の団員への指導、育成
を行っています。これにより、
消防団全体として資機材に対
する習熟が深まり、消防部隊
としての能力の向上や活動時
の安全管理面の強化につな
がっています。

【今後】

拠点資機材取扱訓練で得た
知識、技術は、エンジンカッ
ター等の専用器具がなくても
応用可能な技術です。
消防団は、地域住民にとつ
てより身近な存在です。地域
の自治会やまちづくり協議会
と連携を図り、団員が訓練で
得た知識、技術を地域住民に
指導することで災害に強い町
作りに寄与できると考えてい
ます。

がんばってます、女性消防団員

『播磨町消防団

ノリノリで楽しく活動中!』

播磨町消防団女性分団

私たち播磨町消防団女性分
団は、住民に対する火災予防
指導や啓発、広報活動の充実
と拡大を図るために平成一八
年八月に結成されました。

結成当時は幼保低学年の母
親中心の一〇名でしたが、現
在は団員も増え一九名で活動
しています。

女性消防団員活性化北海道
大会では独自にグルメツァー、
ジンギスカンを頼んだら、け
むりで個室の火災警報器が鳴
り出す始末。

広島大会では情報交流会で
明るいキャラを活かし美味し
い料理とお酒で多くの団体の
方と交流を図り、独自観光ツ
アーではレンタカーが定員M
AX、キャリーケースと土産
だらけの超ぎゆうぎゆう状態
で大笑い。このようにいつも
明るく楽しく活動しています。

一二年目を迎え、中高生の
母親である団員たちの活動時
間が確保し易くなるかと思っ
ていたら、意外にも部活動の
遠征や塾送迎等により一層多
忙になっています。活動時間
の確保が課題になりつつあり
ます。

活動の柱の一つである啓発
劇は、「防災評論家 梶ヶシ
子」「播磨町消防団マスコッ
トボーイ けすぞう君」など
濃いキャラたちが登場するの
で、町・県のイベントや自治
会などで人気。当日演技で
きる人員構成により「少人数
用・多人数用」、対象者によ
り「子ども向け・成人向け」、

テーマにより「火災・救急・
地震・津波」など使い分ける
工夫を凝らしています。
新作や改編を重ね、現在は
以下の七種類の演目で活動し
ています。

- ① 『火はこわい〜ちびぶた編』
- ② 『住宅用火災警報器をつ
けよう〜嫁姑編』
- ③ 『救急車が来るまでに：
あなたにもできること
〜白雪姫編』
- ④ 『火はこわい〜大怪獣パ
トル編』
- ⑤ 『教えてノラえもん〜防
災編』
- ⑥ 『火はこわい〜ゆきばあ
さん編』

⑦ 『火はこわい〜ちびぶた
兄弟編』
また、平成三三年度に行わ
れる全国女性消防操法大会に
兵庫県代表として出場します。
大会に備え、播磨分署のス
ペースを借りて夜間練習をし
ています。三年後に迫った操
法大会、未知の世界なので気
がかりはありますが、一つづ
つ解決して前進あるのみ!
これからも播磨町住民が安
全・安心して暮らせるよう、
私たち女性分団員が子育ても
しながら『明るく・無理な
く・楽しくをモットーに』防
火・防災啓発活動を一層推進
していきたいと思えます。



2018年 ポンプ操法大会

『一年を振り返って』

三木市消防団

昨年四月に三木市の女性消防団員として私たち五名が任用されてから、ちょうど一年が過ぎました。

私たち五名は、市内在住者以外に、市外在住で市内の事業所等に勤務している者もいます。

全員、消防団という言葉に馴染みがなく、入団したけどどういふことをするのか？と本当に私に出来るのかな？という不安な気持ちでいっぱいでしたが、あつという間の一年間でした。

一年間の活動を振り返ると、私たちの初めての仕事は、毎年四月初めに行われている消防大会でした。初めての経験で、右も左もわかりませんでした。先輩女性消防団員に助けていただきながら参加しました。



新入団員訓練

四月中旬には、新入団員訓練に参加しました。消防団員の基本動作となる、礼式訓練・ホース取扱い訓練を行いました。難しいこともあったけれど、消防団員としての第一歩を踏み出すことが出来ました。

九月は防災フェスティバルに参加しました。防災関係展示コーナーでの火災予防啓発活動を通じ、市民の方々と交流することができました。そ



防災フェスティバル

の時に、年配の方から「三木市には女性の消防団員さんがいるんやね。暑い中たいへんやけど、がんばってね。」と声をかけてもらったことが印象に残っています。

一月は毎年行われている自由が丘連合自主防災訓練に参加し、私達女性消防団員も、応急処置訓練を実施しました。

二月には、兵庫県消防学校での女性消防団員技術研修会に参加し、礼式及び小型ポンプの操作方法について学びました。

また、昼食時にはおいしいカレーを食べながら、他市町



自由が丘連合自主防災訓練



女性消防団員技術研修会

の女性団員さんと情報交換等ができ、内容盛りだくさんな研修会となりました。

まだまだ新米の消防団員ですが、防災の輪を広げるため、自分たち出来る事をコツコツと頑張っていきたいと思えます。



新入団員研修 (礼式訓練)



任命式より

今年四月、篠山市消防団に本市初となる一〇人の女性が入団し、本部付の「消防団女性班」として結成しました。

四月二日の任命式では団長から、「消防団は消火活動だけでなく、防災活動や避難所の運営では特に女性の力が重要になる。女性ならではの活



ポンプ操法大会 (司会進行)

動に期待する」と訓示があり、新調された制服をまとった女性団員は、これから始まる消防団活動に期待と不安が入り混じり、緊張した面持ちで、任命書を受けられました。

女性班の主な活動は、基本的に消火活動(火災出動)は行わず、火災予防に関する啓発活動、各種消防団行事(出初式、操法大会など)への参加、応急手当などの普及啓発活動をしていきます。

入団後は、四月の新入団員研修にて、消防署員より礼式部隊訓練などを教わり、六月の篠山市消防団ポンプ操法大会では、司会進行や集計係などの役割を担いました。

今後は、兵庫県女性消防団員活性化研修会や技術研修会、全国女性消防団員活性化大会に参加し、先進的に取り組まれている他市の女性消防団員さんと研修や意見交換等を重ねていき、今後、女性消防団の活動が篠山市消防団のますますの発展に繋がるものと期待します。

『火災予防 私たちも一役』

篠山市消防団女性班

「淡路市消防団は 安全第一!」

淡路市消防団長

高橋 宏



淡路市消防団は平成一七年の淡路市誕生と同時に発足し、現在は五地区、二五分団、消防ポンプ自動車八台、小型動力付積載車八一台、団員数一七七九人体制で、日夜消防活動に精励しています。

高橋団長は、昭和五六年に旧一宮町消防団に入団され、平成二三年に一宮地区団長、平成二五年には副団長に就任され、平成二九年より淡路市では四代目の消防団長を拝命されました。

また、平成七年の阪神・淡路大震災では、自宅の被害も顧みず、避難者の誘導や、瓦礫等の撤去活動にも精力的に取り組みました。現在では震災当時を知る団員も減少しており、その貴重な活動経験は、団員の模範となっております。加えて、責任感是非常に強く、穏健なその性格は地域住民や関係機関も厚い信頼を寄せています。

そんな団長は日頃、建築業に従事しており、仕事の現場では誰よりも現場の安全確認を怠りません。その堅実さは、消防活動でも活かされており、火災時には、常に広い視野で

わが町の団長さん

状況を把握し、地域住民だけでなく、消防団員の身の安全にも細心の注意を払っています。

また、幹部団員の育成を重点とした訓練に積極的に取り組まれ、より一層の消防・防災力の向上を図っています。

今後も淡路市消防団は、高橋団長の指揮のもと、誰一人怪我をすることのないよう、常に安全第一で消防活動に取り組みます。

「消防団員 二二九〇人の団長」

南あわじ市消防団長

細川 知大



南あわじ市は兵庫県最南端の市であり、平成一七年一月一日に三原郡緑町、西淡町、三原町、南淡町四町が合併して誕生しました。

現在の人口は約四万五千人で面積、人口とも淡路島最大の市となりました。

南あわじ市消防団はこの南あわじ市誕生と同時に発足し、現在は四方面隊、五九分団、消防ポンプ自動車二四台、小型動力付積載車八四台、団員数二、一九〇人体制で日夜消防活動に精励しています。

細川団長は平成四年に旧三原町消防団に入団され、平成

一四年に分団長。その後、平成一六年には三四歳で選任分団長(階級副団長)を務め、平成二九年四月一日より第七代南あわじ市消防団長に就任されました。

就任後は、消防団員の消火技術の向上と教養訓練を兼ねた中継訓練を方面隊毎に四回実施し、市内の消防力強化を図るなど、各方面隊の組織・体勢づくりに着手しており、持ち前の行動力を発揮されています。

火災や風水害をはじめ今後懸念されている南海トラフ地震等災害時に備え、消防団員ひとりひとりが、どのように行動し、安全且つ的確に対応できるよう取り組んでおられます。

また、消防団活動では災害現場指揮だけに限らず日頃からの消防団員としての自覚・規律・統制を重んじ、時には厳しい言葉もかけられますが、温厚で人の和を大事にしておられる団長は、団員への気配

りも細やかで幹部・若手を問わず厚い信望を集めております。酪農業という本来の仕事の傍ら、消防団活動にも熱心に取り組まれ日々多忙な団長さんですが、市民の生命・財産を守るため、地域住民から信頼される消防団を目指し、なお一層のご活躍が期待されています。

「時代のニーズに沿った消防団を 目指して」

神戸市須磨消防団長
鷺尾 庄司



神戸市須磨区は、神戸特有



の自然溢れる地形を有し、北側は関西地方では馴染みの深い六甲山系の西端に位置し、南側には須磨海岸があり、一年を通じて広く市民の方はもとより県外からも大勢の旅行者が訪れる街です。

このような地域を管轄する須磨消防団には、団本部、八分団が配置され、団員一五〇名で構成されています。

鷺尾団長は、昭和五七年一月入団以来、地域防災の要として活躍し、災害対応への迅速性、若手団員の育成を重視し、更に近年では神戸市内の大学と連携し、学生団員の入団促進に尽力され、平成三年四月に団長に就任されました。

また、仕事は測量事務所を経営されており仕事と消防団活動と両立されています。趣味は、中学生の頃からクラシックギターを演奏し、演奏歴は四十年以上になります。社会人となってからは同業者の仲間五名とバンドを組み、

ジャンルを問わず、好きな音楽を楽しんでいます。消防団という組織は年齢や職業も様々で知識と経験の宝庫です。今後の抱負として、

これらを有効に活用しつつ、須磨消防団の伝統は継承しながらも、若手団員や女性団員の考えに、より一層耳を傾け、時代のニーズに沿った消防団を目指して行く考えをお持ちです。

これからも須磨区民に親しまれ、地域防災の要として信頼される消防団を築いていきたいと願っています。

「絆・人を思いやる 気持ち」

神戸市長田消防団長
外浦 正吉



阪神・淡路大震災から二三年の月日が流れました。あの時の記憶は今も忘れることができません。わがまち

長田も火災により多くの尊い命が奪われました。神戸市長田消防団は団員一五〇人、本団と八つの分団で構成され、長田のまちを守っています。

神戸市長田消防団の団長である外浦団長は、一五才で故郷の岩手県を後にし、当時当たり前だった就職列車に乗って神戸にやってきました。生粋の神戸っ子ではありませんが、持ち前の人当たりの

良さど、根っからの職人気質で地域の皆さんからの信頼も厚く、昭和五九年一〇月に神戸市長田消防団に入団、平成一九年一〇月に分団長に昇任し、二三年の長きにわたり管轄エリアである長田区北部の安心と安全を守ってきました。

そんな時、東日本大震災が発生しました。先にも書きましたが、外浦団長は岩手県九戸郡の出身で、そこは太平洋に面しており、実家は津波で流されたそうです。

以来、外浦団長から、地域との「絆」という言葉を多く聞くようになりました。助け合う大切さ、地域との繋がりが、そして何より、人を思いやる「気持ち」。

それらの思いを胸に、平成二九年五月、神戸市長田消防団長に就任しました。いづれ発生するといわれている南海トラフ地震、わがまち長田も他人事ではありません。

二度の大きな地震を経験された団長が率いる神戸市長田消防団は、災害に対し、強い「気持ち」を持ち、団員全員が力を合わせて長田のまちの安心と安全を守っていきます。

「しあわせの島を守る 消防団」

姫路市家島町消防団

中村 國彦



姫路市家島町消防団は、兵庫県の南西部、瀬戸内海播磨灘の中央に浮かぶ家島、坊勢島、男鹿島、西島の有人島を含む大小四十四(しとし)を合わせて、しあわせの島々を管轄しており、瀬戸内海国立公園にも指定された、素晴らしい眺めを堪能できるロマン漂う地域を守る家島町消防団です。

中村団長は、お仕事の傍ら趣味のゴルフやバイクでのツーリングを楽しまれ、気候の良い時期にはどちらに行こうかと悩まれる事も多いのですが、どちらの趣味も良き仲間があつてこそであり、人との繋がりを消防団活動にも活かしておられます。

温かな性格と満面の笑顔で団員に接せられる姿は、良き兄であり父として団員からの信頼も厚く、お仕事柄、船の上から島の安全を見守り続けられています。

これからも四十四(しあわせ)の島の歴史と伝統を守り、島民の安全・安心のためにリーダーシップを発揮される団長さんです。

「厚い信頼、スーパー団長」

姫路市飾磨消防団

桑名 秀信



姫路市飾磨消防団は、市の南部のほぼ中央に位置し、西

は広畑区から東は大塩町までの東西一四キロメートルの海岸線を管轄し、秋には地域を上げて行われる祭りが盛んで、中でも特に灘のけんか祭が有名な消防団です。

桑名団長は、昭和五一年二月に入団以降、持ち前の正義感と熱意で分団長及び副団長を歴任し平成三〇年四月に第七代目団長に就任、現在、五

四四名の団員の先頭に立ち、昼夜を分かたず地域の安全安心に大きく貢献されています。団長の人柄は、温厚誠実で規律に厳しい反面、団員への気配りも人一倍細やかで、団員はもとより団幹部からも厚い信望があります。

現場活動に対しては、分団長時代に台風の接近と同時に発生した火災に出勤し、炎と煙の怖さを経験されたことから団員の安全が第一と考えられています。

また、常備消防や自主防災組織との連携協力体制の必要性を十分認識され、その強化に取り組まれるなど、地域の防災リーダーとして幅広く活動されており、今後、地域防災力の一層の強化が期待されます。



われら若手消防団員

～操法大会に出場して～

～若い力で ふるさとを支える！～

平成三十年四月に、私は加東市消防団社分団に入団しました。入団してすぐ、分団長からポンプ車操法の選手に指名されました。操法をするのはもちろんのこと見るのも初めてで、私にできるのか不安でしたが、先輩方から熱心な指導をしていただき、選手のみなさんにくさん練習に付き合ってもらって何とか形になっていきました。

私が一番苦労したのは規律です。頭从天辺から爪先まで意識を集中させて、ピシッ、パシッとメリハリのある動きをし



加東市消防団
社分団
井村 大祐

私の住む淡路市は、兵庫県の南部、淡路島の北側約三分の一を占めており、五斗長垣内遺跡や舟木遺跡などの旧跡や、古事記・日本書紀にも登場する伊弉諾神宮など、数多くの文化遺産が存在します。しかし、そんな魅力ある淡路市でも、昨今の少子高齢化や過疎化の煽りを受けており、山間部等では若年層の人口が少なくなりつつあります。私が消防団へ入団したのも、そういった現状を受け、団員確保に頭を悩ませていた地元



淡路市消防団
大町分団
松廣 恭範

平成三十年四月に、私は加東市消防団社分団に入団しました。入団してすぐ、分団長からポンプ車操法の選手に指名されました。操法をするのはもちろんのこと見るのも初めてで、私にできるのか不安でしたが、先輩方から熱心な指導をしていただき、選手のみなさんにくさん練習に付き合ってもらって何とか形になっていきました。

私が一番苦労したのは規律です。頭从天辺から爪先まで意識を集中させて、ピシッ、パシッとメリハリのある動きをし

平成三十年四月に、私は加東市消防団社分団に入団しました。入団してすぐ、分団長からポンプ車操法の選手に指名されました。操法をするのはもちろんのこと見るのも初めてで、私にできるのか不安でしたが、先輩方から熱心な指導をしていただき、選手のみなさんにくさん練習に付き合ってもらって何とか形になっていきました。

私が一番苦労したのは規律です。頭从天辺から爪先まで意識を集中させて、ピシッ、パシッとメリハリのある動きをし

先輩団員の方に、入団を進められたことがきっかけでした。

入団前は、消防団は上下関係が厳しいイメージがあり、とても緊張していましたが、実際に入団してみると、先輩団員の方々は気さくな方ばかりで、様々な年齢層、様々な職業の人達と交流することで、消防活動以外の見聞も広めることもできました。

また、火災現場では、危険を伴う作業をするのではないかと不安もありましたが、最前線の筒先は、先輩方が率先して担当してくださり、私は後方での作業を担当させていただいております。

今はまだ新人団員で、先輩方の姿を見て消火活動を勉強しているばかりですが、いつか先輩方のように、有事の際は第一線で活動し、魅力あるふるさとを支える立派な消防団員となれるよう尽力していきたいと思っています。

先輩団員の方に、入団を進められたことがきっかけでした。

入団前は、消防団は上下関係が厳しいイメージがあり、とても緊張していましたが、実際に入団してみると、先輩団員の方々は気さくな方ばかりで、様々な年齢層、様々な職業の人達と交流することで、消防活動以外の見聞も広めることもできました。

また、火災現場では、危険を伴う作業をするのではないかと不安もありましたが、最前線の筒先は、先輩方が率先して担当してくださり、私は後方での作業を担当させていただいております。

今はまだ新人団員で、先輩方の姿を見て消火活動を勉強しているばかりですが、いつか先輩方のように、有事の際は第一線で活動し、魅力あるふるさとを支える立派な消防団員となれるよう尽力していきたいと思っています。

神河町は兵庫県のほぼ中央に位置するハート型の町です。町の西側には、昨年一二月に国内一四年ぶりに新設のスキー場がオープンした峰山高原と、映画「ノルウェイの森」や大河ドラマ「軍師官兵衛」など数多くの作品のロケ地となった九〇ヘクタールのススキ草原、砥峰高原が広がります。

町の東側には、清流 越知川が流れ、沿線では名水が湧き出る場所が点在しています。



新野の水車

地域のお知らせ

神河町

高原・名水・歴史にふれあうまち

この沿線でサイクリングを楽しむ越知川名水街道自転車下りは人気で、神河町の自然を感じながら自転車をこぐ人々の姿を見ることが出来ます。

町の中央は、昨年四月に日本遺産に認定された銀の馬車道はエリアで、資料館や現存する馬車道などがあります。

ここでは、昨年一月に道の駅「銀の馬車道・神河」がオープンしたほか、空き家をリノベーションした古民家レストランやカフェなどが点在し、多くの人々が訪れています。

また、町内各所には自然豊かな神河町ならではの観光施設がたくさんあります。新田ふるさと村ではオートキャンプやキャンピング、コテージなどアウトドアが楽しめる宿泊施設が充実し、バーベキューや釣りなどを楽しむことができます。いこいの村グリーンエコー笠形では春にこのほりが大空を舞う大空遊泳を見ることが出来るほか、アウトドアやスポーツ施設も充実しています。農村公園ヨードルの森では、アルパカやペンギン、カンガルーなど様々な動物とふれあうことができ、パンやアイスクリーム、クラフトなどの手づくり体験も各種あります。

神河町へのアクセスは、車では播但連絡道路や国道三二二号を、電車ではJR播但線を利用すると大変便利です。JR播但線の新野駅周辺では、田んぼが広がる中、水路に水車がまわり、日本の原風景を垣間見ることが出来ます。

自然の魅力があふれる神河町でぜひ癒しの時間をお過ごしください。

丹波市

太古から受け継ぐ豊穡の地

丹波市は、兵庫県中東部、京都府との県境に位置し、阪神間から車で約一時間半程度の中山間地域です。加古川・由良川の源流地域で、日本一低い谷中央分水界を中心に南北にのびる低地帯「氷上回廊」を介して日本海側と瀬戸内海側の気候風土が混在。豊富な雨や雪、豊饒をもたらす耕土に恵まれ、生物の多様性豊かな農産物や文化を育んでいます。

秋冬には、昼夜の寒暖差が「丹波霧」と呼ばれる深い乳白色の霧を生み出し、森や田畑をしっとり包み込みます。朝霧や夕霧、雲海が神秘的な光景を生み出し、「丹波栗」「丹波黒大豆」「丹波大納言」



岩屋山雲海

小豆」の丹波三宝などの特産物に潤いを与えます。丹波霧に包まれて育つ特産物は、古来より朝廷や幕府に献上され、現在も高い評価を得ています。

■丹波の誇り「丹波三宝」

「丹波栗」「丹波黒大豆」「丹波大納言小豆」は全国に誇る宝ともいえる特産物です。素材の風味が強く、比較的粒が大きいのが特徴です。農家がこだわりと高い技術を持って、守り育てています。

市内外の人に「丹波三宝」を味わってもらおうと、様々なイベントを開催しました。丹波栗フェアが九月中旬〜一〇月中旬、丹波大納言小豆ぜんざいフェアが一月上旬〜二月上旬。今年も丹波市の味覚



丹波三宝

を楽しんでもらえるイベントを行う予定です。

■丹波竜を楽しむ

平成一八年八月七日、約一億一千万年前の地層、篠山層群から国内最大級の植物食恐竜「丹波竜」の化石が発見さ



丹波竜モニュメント

丹波竜のちーたん：市のマスコットキャラクター。 「ち」は地層・いのち、「ん」は長く・永遠、「たん」は丹波・誕生を意味し、からだのしなやかな模様が、地球の歴史ともなうまれた、地層をあらわし、化石のアップリケをつけています。あたまには生命の誕生を意味するいのちの双葉をつけ、いのちや環境の大切さをつたえます。



わ〜いちーたん



実物大の骨格模型

れました。全長約一五メートルで、竜脚類という首の長い恐竜です。学名は「タンバティタニス・アミキティアエ」。丹波竜や篠山層群を学べる、丹波竜化石工房「ちーたんの館」には、実物大の全身骨格模型が展示されています。また、化石発見地には、実物大の丹波竜のミニチュメントや展望台、発掘現場を再現した化石産状ミニチュメントなどが設置されています。隣接する元気村かみくげでは、化石発見地から運び出した石で化石発掘体験もできます。

地域の誇り

明治維新から一五〇年を迎える平成三〇年度、小野市においては「市役所新庁舎」の着工や「消防署北分署」の開設、「新学校給食センター」の稼働など大型の事業が目白押しです。

チャレンジし続ける小野市にあつて、新たにできた二つの地域の誇りを紹介します。

待ちわびた「鉄溪温泉」憩いの場

四〇〇年以上の歴史がある小野市下来住町の鉄溪温泉が五月に復活しました。

加東郡誌によると、一五八二年に冷泉がわき出し、病人が沐浴すると病気が治ったとされています。



「鉄溪温泉きすみのの郷」の浴室



関係者と保育園児らがテープカット

新たに整備した「鉄溪温泉きすみのの郷」は、薬効のある冷泉として地域に語り継がれてきた「塩の井」（井戸水）を使い、自然を感じる岩風呂でゆったりとできます。

男女各六人が入ることができ程度。施設は、木造平屋約二〇〇平方メートルで、食事処もあり、JR加古川線小野町駅のそば処「ぶらっときすみの」の二号店が入り、手打



「ぶらっときすみの」のそば



施設の外観

小野市

ちそばを提供します。入浴料は、大人（中学生以上）六〇〇円、小学生三〇〇円。火、水曜日休館。問い合わせは、「鉄溪温泉きすみのの郷」〇七九四・八八・八四二六／小野市下来住町六五九

近くには、「白雲谷温泉ゆびか」（黍田町一〇〇〇一）もあり。趣のある「水辺の湯」「森の湯」のほか、一八種類の薬石を使った岩盤浴などがあり、多くの方が気軽に利用できる施設です。ぜひ異なる二つの湯を堪能してください。

小野市産山田錦を使った純米吟醸



小野市下東条地区の酒米山田錦を使った日本酒「おの恋生一本純米吟醸」を五月から販売しています。

市内でも、特に高品質とされる同地区（地域ランク特A）の山田錦を一〇〇％使用し、長野県にある酒造会社と連携して生産しています。フルーティーですっきりとしており、飲みやすくなっています。

七二〇ミリリットルで一、八三六円。箱入りは一、九九八円（いずれも税込み）。市内の酒店などで購入できます。今年一二月には、「おの恋純米大吟醸」も販売する予定です。

神戸市中央区

開港一五〇周年を迎えた神戸市・中央区

神戸市の中心に位置する中央区は、明治期の開港とともに発展を遂げた地域です。人口はおよそ一四万人で、その約一割の住民が外国人であり、観光名所の北野異人館街を含め、外国人との交流が日常的に盛んな地域でもあります。同時に、兵庫県の県庁所在地であり、国際貿易の要として、ビジネスや観光はもちろん、六甲山にも面しており、近年

では、健康づくりのための登山道も整備され、多くのハイキング客で賑わっています。また、神戸市中央区は、新幹線、JR、阪急、阪神と交通アクセスが大変良く、最近では、神戸港への大型旅客船の入港も頻繁にあり、多くの観光客に対応できるホテルや名所・旧跡に加え、年間を通じて多彩なイベントが実施されています。



神戸まつり

毎年五月に開催される「神戸まつり」は、昭和四六年に市民参加型の祭りとして誕生し、神戸市中央区の三宮をメイン会場に、市内各地で関連行事が実施されている兵庫最大最大の祭典です。市民団体やマーチングバンド、姉妹都市からの来賓に加え、多数のサンバチームも参加し、会場となる神戸市役所周辺は、大勢の人々で埋め尽くされます。八月には、一万発の花火が夜空にきらめく「みなとこっぺ海上花火大会」、一二月には、阪神・淡路大震災犠牲者の鎮魂の意を込めて開催される「神戸ルミナリエ」など、大変多くの市民や観光客で賑わいます。



神戸港



神戸ルミナリエ

しかしながら、これらの体験を教訓とし、災害に強い街づくり地域をあげて取り組みを続け、防災への教育研究機関を含め、情報発信に努めています。現在、三宮駅周辺の再開発に伴い、都市の利便性と機能が大きく変わろうとしています。若い子育て世代も増え続ける一方で高齢者の増加も待ったなしの問題です。流行の最先端を発展し続けてきたこの街をこれからも大切に守り、住民はもちろんのこと、訪れる方々に「神戸っただけだと嬉しいです。」

編集後記

暑かった夏から、季節は秋に移り、過ごしやすくなってきましたが、皆様におかれましては、朝夕の冷え込みなどで体調を崩されませんようをお願いいたします。

今年は、大阪北部を震源とする地震や梅雨前線の影響に伴う大雨、さらに台風第二号、二〇号、二一号と立て続けに本県に上陸し、被害をもたらしました。消防団、消防本部等の皆様には、警備体制や災害対応にご尽力いただき本当にお疲れ様でした。しかし、今後もいつどこで災害が起こっても不思議ではありません。そうした中、消防団は、まさに地域防災力の要として大きな期待が寄せられています。これからも、地域の皆様の命と暮らしを守るため、引き続き、ご協力・ご尽力よろしくお願いたします。

今月号では一面で第二七回兵庫県消防操法大会の様子を掲載しております。県大会に向けて厳しい練習を重ねられた出場隊団の皆様、お疲れ様でした。また、応援してくださった皆様、暑い中ありがとうございました。

当日は、県消防学校の皆様、各地区から推薦のあった消防職員の皆様に操法の審査をしていただくなど、多くの方にご協力いただきました。この場をお借りして改めてお礼申し上げます。

このたびの兵庫消防の発刊が大変遅くなりましたこと、心よりお詫び申し上げます。本号では、五月、七月に掲載予定の記事についても紙面を拡充して掲載しました。

また、紙面作成にあたり各地区から多数の寄稿を頂きました。誠にありがとうございました。

では、兵庫消防を今後とも、ご愛読のほど、よろしくお願いたします。

